



介護専門職対象研修会事業の報告

○御代川英己
医療法人社団 輝生会
船橋市立リハビリテーション病院



公益事業局 在宅支援部

- 局長 松川基宏
- 担当理事 外口徳章 中村亮太
- 部長 御代川英己
- 副部長 大曾根厚人 高木秀明
- 他部員 8名

背景と事業目的

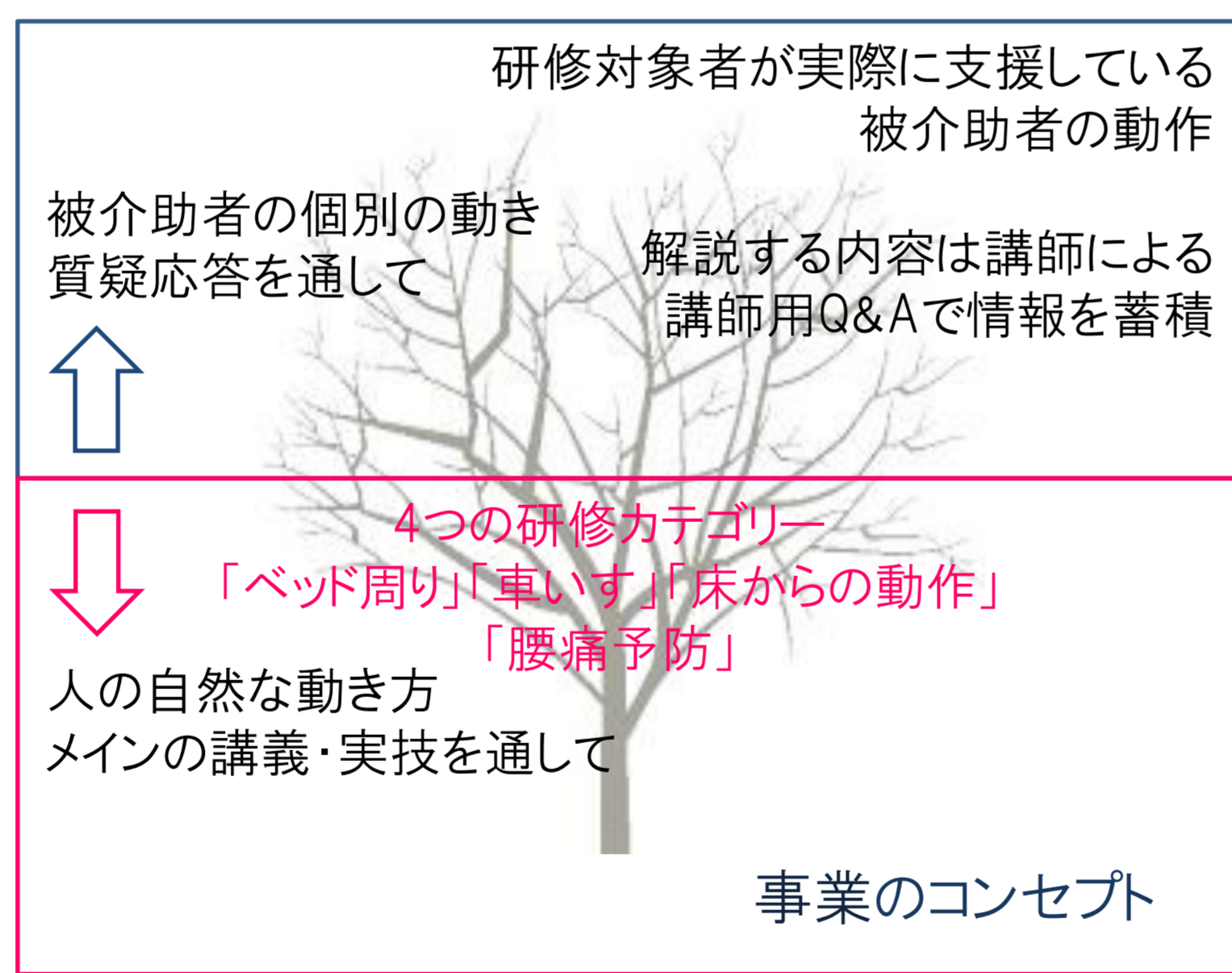
目的

- (1) 介護専門職に動作介助技術向上のための機会を提供する
- (2) 受講者が学んだ知識を現場に活かし、かつ所属機関のスタッフに伝達することができる
- (3) 千葉県理学療法士会員の介助技術指導能力を高める、事業に参加する理学療法士が誰でも講師になることができる
- (4) 介助技術と伝達方法をまとめ蓄積する
- (5) 理学療法士と、地域の介護職がつながるきっかけづくりにする
- (6) 千葉県理学療法士会が県・市町村行政から必要とされる公益性の高い職能団体となる

本事業は、千葉県理学療法士協会在宅支援部が、介護専門職や関連する事業所・団体からの介助技術に関する研修のニーズの高まりに応じて、介護専門職のスキルアップと研鑽を目的に企画したものである。もともと平成26年度の在宅支援部(当時福祉部)の会議にて、これまで千葉県理学療法士会として他職種向けにリハを知ってもらうための研修や医療職介護職のスキル向上のための研修(公開セミナー)を行っているが、公益事業としてもっと介護福祉分野において地域に還元できるような研修会の開催も行っていくべきではという議論がなされたことを発端に、部内で企画の検討を重ねてきた。
事業目的は上記の6つとし、取り組むうえでの骨子とした。

事業の概要と特色

理学療法士が実施する介助技術の研修としての特色を出すために、その内容を「人の自然な動きを理解してもらうための講義・実技」とし、またここでの自然な動きを、成人の運動生理学的な動きで、エネルギー効率がよく、日頃より行っている動作、と定義した。応用的なテクニックとしての介助技術は多岐にわたり、理学療法士によっても方法や考え方の違いがある。企画段階で部員の中で明らかであったため、今後本事業を全県で展開していくためにも、講師となる理学療法士の中で普遍的で、自立支援の観点から重要な知識を伝えるというコンセプトとした。
それを基に研修の主題は「安全で安楽な動作の原理原則・理学療法士が考える自立支援のための視点」とした。



研修概要	
対象:	居宅介護支援事業所に所属する訪問介護員 5~10名
開催場所:	研修開催に同意した居宅介護支援事業所
講師:	千葉県理学療法士会員2名(在宅支援部員1名以上を含む)
研修時間:	1回90分
研修費用:	講師交通費を対象事業所にて負担
研修の進め方:	講義資料に沿った講義と実技を行う 実務上の質問に対する解説等は講師に任せる 講師用Q&Aとして蓄積した情報を参考にする

研修の実施形態は、講師派遣型の研修会であることを特色としている。これは事業目的である地域介護職とのつながりを作るといううえで、個人ではなく事業所と県士会との関係づくりを基盤としていくことと、研修会場を設定しないことによる、運営側の負担軽減を図ることを狙いとしている。

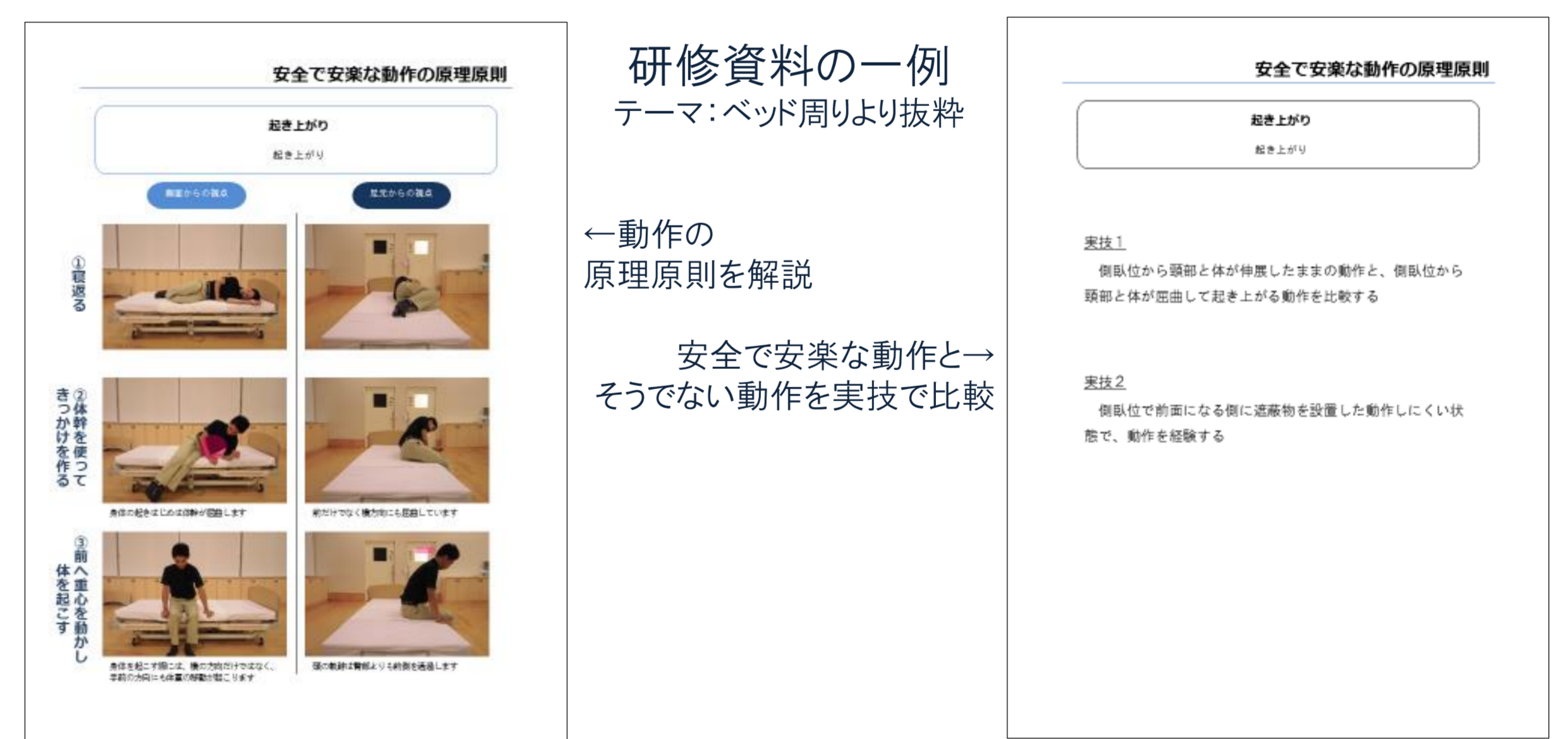
事業の実績

これまで全6回の開催を行った。尚、1~5回まではプレ研修と位置づけて、受講者にはアンケート等で感想をとらせていただく共に、それを基にした研修内容や資料のブラッシュアップを重ねていった。

回数	日付	対象	人数	テーマ	講師
第1回	平成28年3月13日	訪問介護事業所	15名	腰痛予防	2名
第2回	平成28年8月1日	病院	4名	車いす	2名
第3回	平成28年9月14日	訪問介護事業所	13名	ベッド周り	1名
第4回	平成29年1月25日	小規模多機能グループホーム	11名	腰痛予防	3名
第5回	平成29年3月27日	小規模多機能	13名	腰痛予防	2名
第6回	平成29年11月25日	小規模多機能通所介護	17名	床からの動作	2名

研修後のアンケート調査では講義と実技について、とても良い・良い・悪い・とても悪いの、4段階で調査を行った。
講義については、とても良い85%・良い15%・悪いとても悪い0%
実技については、とても良い84%・良い16%・悪いとても悪い0%という結果であった。

現在研修の資料は、下記に提示したように、自然な動きとそうでない動きを実技の中で体験し理解を深めてもらう構成としている。在宅支援部ではこの事業以外にも、千葉県歯科医師会イベント、在宅歯科医療を行う歯科医師育成研修会、福祉のお仕事就職説明会、八千代市民向け介護方法の研修会といった、他団体からの介助技術の講演依頼を受け持っており、本事業での実践経験と資料を用いて、これらの依頼に対応している。



介助技術を伝達するためのスキルアップセミナー

千葉県全域にこの事業を拡大していくための礎として、平成29年10月14日に理学療法士を対象とした「介助技術を伝達するためのスキルアップセミナー」を開催した。

セミナーの目的は、参加者が要介助者に関わる家族や関連職種へ介助技術を指導するための能力「心構え」「知識」「技術」「プレゼンテーション能力」の向上と、それぞれの理学療法の実践の場で学んだことを生かした支援が行えることとした。

前半の講義は、千葉県理学療法士会の田中康之会長に「介助技術を伝達する際の心構えについて」というテーマで、理学療法士が対象者の家族や関連職種に知識、技術を伝えることの意義や目的、伝える際の視点や注意しなければならないことについてお話しいただいた。後半の演習では、「自立支援の視点からの介助伝達の実践」として在宅支援部で実施している介護職員対象研修会のプログラムの一部を、実際に介護専門職にアドバイスした例なども紹介しながら、参加者に体験してもらった。また、その後の参加者同士のフリーディスカッションを通じて、介助技術の伝達において、体験を通じて気づいたことを共有した。

参加者は27名で、経験年数は若手からベテランまで、また所属は病院やクリニックから在宅や介護分野まで、さまざまな背景の参加者が集まった。その中の数名より、在宅支援部で行っている介護職員対象研修事業への協力を申し出があった。本事業と合わせて、来年度に第2回の開催を検討していく。

在宅支援部の位置づけ

企画段階では在宅支援部員以外の協力を募っていくとしているが、現時点でこの仕組みは運用されておらず、在宅支援部員で講師を担当しているところに留まっている。

